花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ冒険てくてく2

国立市立国立第七小学校

平成２７年１月２３日　NO.７７（１７７）

オー君　　「モンタ博士、この前の冬芽のお話のつづきは、どうなっちゃんですか。」

モンタ博士「そうだったね。それでは、あちこちでとってきたいろいろな冬芽を紹介しよう。」

オー君　　「よーし！いろいろ冬芽ウオッチングだ！」

モンタ博士「まず、右のサワシバという木を見てごらん。」

オー君　　「初めて聞く名前の木だけど…。花ちゃん、知ってる？」

花ちゃん　「うーん。私も初めて聞くわ。」

オー君　　「あっ！このサワシバの冬芽は、何枚も皮がついているだけじゃなくて、毛もあるぞ。」

サワシバ（カバノキ科）

花ちゃん　「ほんとうだ。毛が少しついているわ。」

オー君　　「こりゃ、あったかいだろうな。」

花ちゃん　「そうね、きっとポカポカで、あったかそうだわ。こんな日はあたたかな毛糸のマフラーが一番ね。マフラーみたいに冬芽が全部あったかい毛におおわれている木は、ないのかしら。」

モンタ博士「コブシという木が学校のうらにあるよ。冬芽のまわりはもじゃもじゃとした毛だよ。校長室前にもおいてあるよ。モクレンという木もよくにている感じだよ。」

コブシ（モクレン科）

オー君　　「これだけ毛があれば、きっと、

寒い冬ものりこえられるだろうな。」

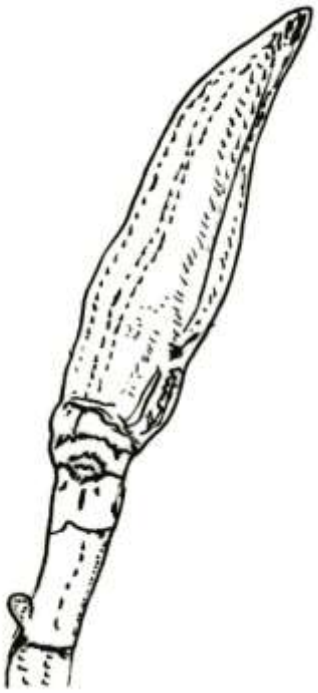
花ちゃん　「モンタ博士、右の冬芽はとっても大きいよ。なんだろうな。」

モンタ博士「とても大きな葉っぱなんだ。それがヒントだよ。さて、何かわかる？」

オー君　　「ほおー・・・。なんだったっけかな。」

モンタ博士「もう、わかったね。いま、言ったね。」

オー君　　「え？いま、言った？あ！わかった。ホオノキだ。でっかい葉っぱだから、ぼく覚えているんだ。この葉っぱは飛行機にもなるんだよね。」



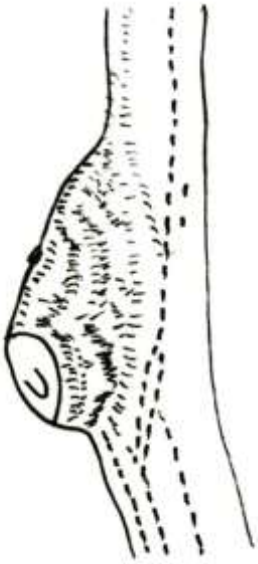
ホオノキ（モクレン科）

モンタ博士「そのとおりだね。こんど、みんなに飛行機の作り方を教えてあげるね。」

花ちゃん　「このホオノキの冬芽って、革のジャンバーを着たみたいですね。」

オー君　　「そうだね。エンピツのサックみたいにも見えるね。」

モンタ博士「大きな皮でまわりを全部つつんでいるみたいだね。いろいろな冬芽があって、おもしろいね。あ！あそこにつる植物のマタタビがあるよ。見てごらん。」



マタタビ（マタタビ科）

オー君　　「マタタビって、あのネコが大好きなものですね。」

モンタ博士「ほほー。オー君よく覚えていたね。えらいね。」

花ちゃん　「うわー。オー君見て。この冬芽は頭をひっこめているみたいでかわいいわ。きっと寒くて頭が出せないんだ。」

オー君　　「なるほど。それだけ、寒さがきびしいということなんだ。」